

10 森永 のり子さん Noriko Morinaga 起

東京都

株式会社 タマ (東京都港区)
代表取締役

事業所
住所：東京都港区高輪 2-15-31 高輪グランドパームス 210
URL：http://t-a-m-a.jp
社員数：4名

業種
真珠に関する製品企
画・販売 他



Profile

- ・会社員時代は服飾デザイナーに師事
- ・離婚し再出発する際に真珠に着目
- ・真珠の宝飾品を企画開発しヒット
- ・真珠の未来のため陸上養殖に挑戦中

講演・相談可能分野

- 仕事と家庭の両立 育ボス
- 人材育成 障がい者雇用 起業
- NPO 設立 多文化共生
- 地域資源活用 防災
- その他 (キャリアアップ・キャリアデザイン、社会人としての教養、ワークショップの企画・運営)

講演実績

- ・2008年～2018年 「フォーマルについて」 (文化女子大学)
- ・2008年 「真珠産業について」 (横浜国立大学)
- ・2013年 「真珠と社会人としての教養/フォーマルについて」 (中国国立東北師範大学)

「私の使命」

ファッション業界を経て真珠に携わり30年

真珠宝飾品の開発販売に留まらず、生産段階からも深く携わり、真珠のスペシャリストとして活躍中の森永さん。キャリアの始まりは、ファッション界での活躍でした。

会社員時代には、皇后美智子氏の衣装を手がけたことで知られるジュン・アシダ氏や植田いつ子氏に学び、商品企画から開発販売までを担当。結婚退職を経て、離婚し再出発の際、「たまたま頼まれて真珠のアクセサリを作り、喜んでいただけたので」と自身のブランドを立ち上げ。

商品は女性ファッション誌やテレビの通販番組でも多く取り上げられました。その間に再婚し「家庭との両立が大変でした」としながらも、顧客にオンリーワンの真珠宝飾品を提案し、ふだん使いの真珠のアクセサリ&ジュエリーの企画販売を手掛けてきました。

海洋環境に左右されず、美しい真珠を安定的に

宝飾品の開発販売が順調に進んでいた2012年ごろ、「真珠産業への報恩と貢献がしたい！」という想いが強くなりました。欧米では働く女性のステータスシンボルである真珠が、日本では冠婚葬祭の宝飾品となっていることも変えたいと。

「100年後の未来の女性に真珠をつなげる」をコンセプトに、これまで培われてきた養殖真珠の伝統・文化と、最新のサイエンス・テクノロジーを組み合わせた陸上養殖の実現に向けて、2016年に株式会社タマを設立。森永さんの事業計画は、2018年にビジネスプランコンテスト『テックプランター第2回マリンテックグランプリ』で日本財団賞を受賞。発表は名だたる企業に注目され「実現に向けた道が見えてきました」。

私流リーダーシップ

理解者の協力で陸上養殖構想は前進中

『WIT2016』の女性活躍アワードでは、“真珠の故郷・三重からイノベーションを！”と呼びかけた森永さん。

「実は同年、もう一つのタネをまいていました」。それが先のビジネスプランコンテスト。「その時は残念ながら落選しましたが、スピーチをきっかけに、ある事業家さんから支援を受けられることに」。その人は森永さんの“夢の実現”に必要な人脈を繋いでくれたといいます。詳しいことは技術的な契約をしていることも多く公開できないことが多いのですが、ここまで続けられた理由を「真珠愛」のおかげ！と森永さんは分析します。

「私が持っているものは、ただ一つ。誰よりも燃え上がる“熱”が、道を切り開いてくれたのだと思います」。

熱い“真珠愛”から広がる未来への可能性

最近は大企業さんからも声をかけてもらうことが増えた！と喜ぶ森永さん。「共同研究に向けて準備中」と話してくれました。海外では天然の魚に対する信頼度が低く、養殖の魚を好む傾向にあり、高価でもトレーサビリティの高い魚を食しているそう。「真珠の陸上養殖は食料生産にもつながる！」と、意気込みをのぞかせていました。

「真珠は“文化と技術の融合”です。私が長年担ってきたのは真珠文化醸成の部分。真珠文化をさらに前進させたい」と森永さんは目を輝かせます。2018年には「青山学院大学 ワークショップデザイナー育成プログラム」で学び、コミュニケーションツールであるワークショップデザイナーの資格も取りました。

(取材時：2018年9月)

こんな講演・相談に対応できます

- 真珠の歴史・文化・品質の解説
- 「大人の女性」教養としての装い
- ワークショップのデザイン・運営

お問い合わせ先

三重県 ダイバーシティ社会推進課

TEL：059-224-2225

WEB：http://www.pref.mie.lg.jp/katsuyaku/index.htm

WEBは
こちら

